

# いの町の未来を、いの町長にプレゼンしよう！

発行  
令和4年2月21日  
中部教育事務所



授業者 稲垣 真治教諭 (いの町立枝川小学校)

教材 第6学年 町の幸福論  
～コミュニティデザインを考える～ (東京書籍 6)

## 単元計画 (全 13 時間)

(太字は総合的な学習の時間でおこなう)

- 第1次 (1)単元の学習の見通しを立てる。
- 第2次 **いの町の未来に対して説得力のある提案をする**ために、「町の幸福論」を読み、筆者の論の進め方、町づくりへの考え方を知り、自分たちの町について考える。  
(2)教材文を読み、文章の構成と要旨を捉える。  
(3)(4)内容を読み取り、資料の効果について考える。  
(5)筆者の主張をもとに、バックキャストの考え方を使得自分の考えをもつ
- 第3次 **町づくりについて調べ、提案を考える。**  
**自分の考える町づくりを提案するための情報を集める**  
(6)自分たちの考える町づくりに合う情報を、思考ツールを用いて整理する。

## 本単元で身に付けさせたい資質・能力

### A「話すこと・聞くこと」ウ 表現・共有

◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

### C「読むこと」ウ 精査・解釈

◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

## 本時で達成したい目標

◇資料を活用し、自分たちの考えが伝わるように表現を工夫することができる。

## 授業の概要

いの町長に、自分たちが考える「いの町の未来に対する提案」をするために、集めてきた資料の中から、「自分たちの伝えたいこと」に最適な資料を、グループの友だちと選ぶ。その際に、なぜその資料が最適と思うのか、資料と自分の伝えたいこととのつながりを意識しながら双方と関連付けて話すことができる。

## 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<b>1 本時の課題をつかむ。</b>	・単元のゴール、そこに向かう単元計画表を確認し、本時は何をおこなうのかを明確にして、学習の見通しをもたせる。
<b>2 発表に必要な資料を考える。</b> Xチャートを使って、資料の仲間分けをする。 仲間分けをして整理した後、プレゼンテーションで使いたい資料を選び、構成表の5つの枠の中に入れ込む。 その中から他の班に紹介したい、「一押し」の最適な資料を選ぶ。	・Xチャートを示し、資料の整理をおこなうよう促す。 最適な資料を選ぶ際に、「自分たちの伝えたいこと」「情報との関連性」との関係性を明確にするように示唆する。
<b>3 みんなで確かめ、報告する。</b> 各班が、自分たちの伝えたいこと、それに最適な「一押し」の資料を話し、みんなに共有する。	・なぜその資料(写真・図表)を使うのか、明確になっているか、最も伝えたいことは何か、そのためにどんな資料を選んだのかを言葉で表すように促す。
<b>4 学習を振り返り、まとめる。</b>	・今日の学習をもとに、本時でどのように課題に取り組んだのかを書くことができるよう、振り返りのポイントを示す。

## 授業づくりのポイント

### ①他教科との関連 (総合的な学習の時間と連携させて国語科で付けた力を生かす)

【国語科で】

「町の幸福論」を読み、筆者の町づくりに対する考え方や、論の進め方、効果的な図表と文章の活用の仕方を知る。いの町の現状も踏まえ、自分たちで考える「いの町の未来」を提案するという見直しをもつ。

「自分が考えるいの町の未来の姿」(伝えたいこと)に合う情報を、分類したり関連付けたりして整理した後に選ぶ。話の内容が明確になるように話の構成、効果的な資料を考える。

提案のよさが伝わるような話し方の工夫と説得力のある話し方を考える。聞き手を意識して、プレゼンテーションの練習をする。

【総合的な学習の時間で】

【課題の設定】  
いの町役場総合政策課の方に、いの町の課題の一つが、「人口減少」であることを聞き、「解決策したい!」という思いをもつ。

【情報の収集】  
インターネット活用したり、アンケートを取ったりして人口減少をおさえる「町づくり」に関する資料の収集をおこなう。

【整理・分析】  
集めてきた資料をもとに、伝えたいことが伝わるような資料を選択したり、データをもとにグラフを作成したりする。

【まとめ・表現】  
パワーポイントを作成し、自分たちが考える「いの町の未来の姿」に関して、いの町長に提案し、コメントをもらい新たな課題に気付く。

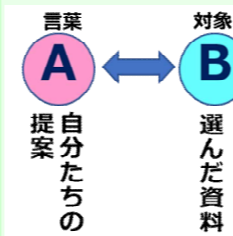


枝川小学校は、今年度、言語能力の向上を図るため、国語科の学習を他教科等、主に総合的な学習の時間と効果的に関連させた単元づくりに取り組んでいる。国語科と他教科とを効果的に関連させる利点を2点あげると、1点目は、他教科とを関連させることで課題意識が明確になり、子どもがより主体的に取り組めることである。また、2点目は、国語科の教科書教材を用いて獲得した国語の力を他教科で試す、「理解したことを表現する」ことができることである。

いの町長が子どもたちの提案を聞いて、「ぜひ、その『町づくり』の提案を取り入れたい!」と心を動かしてくれるためには、集めた複数の資料を分類したり関連付けたりしながら自分の伝えたいことに合った資料を選んだり、説得力がある話の展開を考えたりすることが必要とされる。そのような言語活動を通して、「説得力のある伝え方」という視点で話し方、資料を出すタイミング、使う言葉を考える中で、国語科で学んだ力が、他教科等でも発揮され、生きて働くものとなるのである。

### ②言葉による見方・考え方を働かせるとは…

今、求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるにあたり、国語科の学びの深まりの鍵となるのが「言葉による見方・考え方を働かせること」である。自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を問い直して意味付けることが深い学びにつながっていく。しかし、子どもが授業の中で言葉による見方・考え方を働かせているかどうかは捉えにくい。そこで、講師の松永先生が提案される「見える化」をすると図1のようなになる。A(自分たちの提案したいこと)とB(選んだ資料)の関係性、つまりその資料を選んだ理由を、提案内容を示した上で、取組のよさと目的とのつながりを意識して伝えることが必要とされる。



【図1】

本時は、自分たちの提案に説得力をもたせるために、集めてきた資料の中からプレゼンテーションのための資料を選ぶ学習であった。「私たちの提案は『特産品を生かす』ということで、この選んだ写真(資料)には、その町の特産品がたくさん載っていて一目で分かるから…」などと、自分たちがその資料を選んだ理由を話している姿が見られた。教師は、無目的に資料を選ばせるのではなく、児童に、これら二つの関係性を意味付けたり問い直したりしながら、自分なりの考えを説明させることが必要である。



### ③集めた情報を「思考ツール」を用いて整理する

提案する際に使う資料は、ただ何となく選ぶのではなく、伝えたいことにより説得力をもたせるために、「言葉だけでは伝えきれないことを補うことができるか」という観点をもって選んでいく。Xチャートを用い整理しながら、「私たちの伝えたいことは…なので、この資料があるとより伝わる。」といった表現をしている子どもも見られた。伝えたいことと資料の効果とを繋げて説明することで、資料を使う意義が実感できる。



### ④前鎌倉女子大学准教授 松永立志先生の話より(一部)

○国語科の言語活動を質的に高める鍵は「意図」。子ども一人一人が思いや願い、考え(意図)をもつと、自分ごとになりきって本気で取り組めるはず。教師は、授業の中で子どもを強引に連れ回す(sludge)のではなく、軽く促す(nudge)ことが今求められている教育である。  
○今回のように、総合的な学習の時間と関連させることで、実生活・実社会で生きて働く知識・技能となり、本物の言語活動となる。